

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：17701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K17403

研究課題名(和文) 臨地実習における看護大学生の批判的思考力の変化と使用判断の傾向

研究課題名(英文) The situation that the critical thinking of the nursing student is promoted

研究代表者

李 慧瑛 (Lee, Hyeyong)

鹿児島大学・医歯学域医学系・助教

研究者番号：20596324

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：臨地実習前後における看護大学生のクリティカル・シンキング(CT)を測定し、CTを用いる状況と理由を明らかにした。全国の看護大学生795名に、自記式質問紙調査を行い、統計的分析とテキストマイニング分析を行った。CT測定尺度平均点は実習前 $163.70 \pm 17.68$ 、実習後 $171.21 \pm 19.03$ であった。実習体験によってCT測定尺度総得点が高くなっていた。また、CT認知の有無や実習体験の有無が尺度総得点に影響を与えていた。実習中にCTを用いる状況として、【問題解決】【意見交換】【患者理解】【看護展開】【内省】の5カテゴリーが抽出された。臨地実習における看護学生CT使用傾向を把握することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

臨地実習において学生のCT力を伸ばすためには、まずCTに対する理解を確認し、看護実践の場でいつどのようにCTを発揮すればよいかを具体的に教える必要がある。今回明らかになった「学生がCTを用いる状況」を教員が認識することで、学生の体験を教材化することが可能となる。その教材化された体験について「教員自身がどのように考えるか学生に説明する」「教員が自分の考えをモデルとして示す」などの教育スタイルを活用し、学生のCTを促進することができる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to measure the critical thinking (CT) skills of nursing college students before and after practical training, and examine whether situational factors such as purpose and context can affect judgments related to CT. We distributed 795 nursing students an anonymous self-administered questionnaire using the scale to assess the CT and free description type questions. The collected data was analyzed using statistical analysis and text mining analysis. The effective response rate was 22.01% (n=175) before training and 22.26% (n=177) after practical training. The average score of the CT scale was  $163.70 \pm 17.68$  before training and  $171.21 \pm 19.03$  after practical training. Five categories were extracted as situations to use CT in practical training from free description answers. The average score of the CT scale rises by practical training experience. The existence of the practical training experience have affected the total score of the CT scale.

研究分野：看護教育

キーワード：テキストマイニング 看護基礎教育 クリティカル・シンキング 批判的思考 看護大学生

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

昨今、日本においては若い世代の「考える力」やコミュニケーション能力の低下が問題視されている。平成 24 年の国家戦略会議で報告された「社会の期待に応える教育改革の推進」の中でも、CT の育成は重要項目として提言されている<sup>1)</sup>。従来の詰め込み型学習から脱却し、思考力を育成する学習方法の研究が徐々に進められている。

批判的思考、つまりクリティカルシンキングとは、「何を信じたり、何を信じたりすべきかを決定することに焦点を当てた合理的で反省的な思考」<sup>2)</sup>であり、認知的側面(能力とスキル、知識)と情意的側面(態度、傾向性)から構成される。つまり、論理的思考から導き出した判断を実践行動に繋げ、自身の行動を省察できる思考法である。若い世代をクリティカルシンカーに育てることは、自分自身で物事をしっかりと判断でき、創造性や社会性をより豊かに持った人間を育成することである。批判的思考を身につけることによって、自己を振り返り、目標を設定することで、自ら学び成長していくことが可能となる。

看護は、看護過程という問題解決方法を用いて提供される。情報を集め、分析し、問題点の抽出、実践的アプローチ、評価を繰り返すこの思考方法は CT の基礎であるとされている<sup>3)</sup>。また、松谷ら<sup>4)</sup>は、CT は看護実践能力の 3 つの主要構造の一つである「人々を理解する力(知識の応用力、人間関係を作る力)」に含まれる要素であるとしている。しかし、これまでの先行研究では、他の学部の大学生と比べて、看護学生は CT 能力や CT 態度の自己評価が低い傾向にあることが明らかになっている。

2000 年代頃から看護領域に本格的に導入され始めた CT ではあるが、文化的に相互協調的自己感を持つ日本人にとって浸透しにくいものとなっている<sup>5)</sup>。この分野での調査報告や教育方法の確立は伸び悩んでいるのが現状である<sup>6)</sup>。このような状況を打開し、CT の育成を推進していくための研究を進めることが急務である。

### 2. 研究の目的

CT は知識、技術、態度で構成されている。臨地実習は、これまで身に付けた知識、技術が態度と統合され、臨床看護実践能力の基盤となる CT を習得する入口である。そのため本研究では、臨地実習前後での変化に着目し、臨地実習前後の CT 能力、CT 態度について尺度を用いて測定し比較する。また学生の生活背景と学習背景との関連を分析する。先行文献<sup>7,8)</sup>では、臨地実習前後で看護学生の CT 能力の自己測定をしているが、一つの教育機関のみで行われた調査あり、対象を広げた調査が必要であると考えられる。

次に本研究では、新しい知見として看護学生がどのような状況で CT を用いると判断しているのかをテキストマイニングの手法を用いて明らかにし、臨地実習における学生の CT の傾向性を検討する。これは、田中<sup>9)</sup>らの一般大学生らに行った研究に着想を得ている。看護学生が、どのような状況において CT を使用すると「効果的」、また「非効果的」と判断しているかを明らかにすることは、思考傾向を知る上で非常に重要であると考えられる。これらの状況を教育指導する立場の者が知ることで、学生の思考に対する効果的な働きかけができる。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究デザイン

横断的実態調査研究、混合研究

#### (2) 対象

「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に定められた看護師養成課程・専門分野の臨地実習(5 領域)に臨む学生を対象とした。実習後の調査は、専門分野の 5 領域すべての臨地実習を終了した学生とした。国内の看護系大学 254 機関に在籍する 3 年生としたが、専門分野の臨地実習を 4 年生前期までに行っている場合には 4 年生も含めた。

#### (3) 調査期間

2017 年 6 月～2018 年 8 月

#### (4) データ収集方法と調査内容

##### データ収集方法

まず、対象の 254 機関の学部長もしくは学科長宛てに、調査主旨説明書及び調査協力依頼文を送付して、研究協力への同意を得られた 10 機関 795 名の学生を対象に調査を実施した。

##### 調査内容

##### ・CT の測定

CT の測定には、石橋ら(2015)の臨床看護師の CT 測定尺度を用いた<sup>10)</sup>。この尺度は、Rubenfeld の看護 CT の特性<sup>11,12)</sup>の具体例および平山の批判的思考尺度<sup>13)</sup>を参考に作成された尺度であり、信頼性と妥当性が確保されている。

##### ・対象の背景と学習状況

先行研究<sup>7,8,10,11,13,14)</sup>を参考にし、対象の背景と学習状況について、計 10 項目の質問を設定し

た。

・臨地実習中における CT 使用の状況

田中ら<sup>9)</sup>の調査を参考とし、実習後の調査で、臨地実習中 CT を用いるとうまくいった状況(もしくは、うまくいかなかった状況)とその理由について自由記述データを得た。本調査の狙いを理解してもらいたく確かな回答を得るために、質問紙内に CT の 8 つの特徴を提示した。

(5) データ分析方法

CT 測定尺度の分析

まず、収集した全データについて、実習前後の CT 測定尺度の平均値と標準偏差を算出した。次に、実習前後の比較については対応あるデータのみを抽出し、CT 測定尺度の総得点と下位尺度の得点について Wilcoxon の符号付き順位和検定を行った。尺度の信頼性は、Cronbach's  $\alpha$  で確認した。対象の背景については基本統計量を算出した。CT 測定尺度の得点について、対象の背景による影響を探るため、背景別に群分けを行い比較した。Mann-Whitney の U 検定を用いて、 $p < .05$  を有意差ありとした。解析ツールには、SPSS Statistics ver.24 (IBM) を使用した。

自由記述データの分析

テキストマイニングの手法を用いて、ことばネットワーク分析と特徴語分析を行った。ことばネットワーク分析では、記述内容の主題を読み取るために共起関係で作図した。ネットワーク図の単語を囲む丸の大きさは頻度を表し、大きければそれだけ頻出していることになる。得られた図のクラスターを手がかりに原文検索を行い、学生が CT を用いる状況とその理由について記述内容のカテゴリー化を行った。

特徴語分析では、実習後の CT 測定尺度総得点の中央値で高得点群と低得点群に分け、補完類似度によって特徴語を抽出した。特徴語とは単なる頻度ではなく、分布を考慮した上でその属性に偏って出現する語句のことである。補完類似度とは、その属性に出現している割合が高い単語がより特徴的とみなされる値であり、指標値が大きいほどその属性において特徴的である。これらの分析から抽出された単語(語句)については、より考察を深めるために原文参照機能を用いた。元の記述データの文脈を確認し、どのような状況であるかを検討した。解析ツールには、Text Mining Studio 6.1.2(NTT データ数理システム)を使用した。

(6) 倫理的配慮

本研究は所属大学の倫理委員会の承認を受け実施した。

4. 研究成果

(1) 結果

CT 測定尺度

質問紙の回収数は、実習前後共に 180 名(22.64%)、CT 測定尺度の回答に欠損がないものを分析対象として、有効回答数は実習前 175 名(22.01%)、実習後 177 名(22.26%)であった。CT 測定尺度総得点の平均値  $\pm$  標準偏差は、実習前  $163.70 \pm 17.68$ 、実習後  $171.21 \pm 19.03$ 、Cronbach's  $\alpha$  係数は、実習前  $= .90$ 、実習後  $= .94$  であった。有効回答の内、実習前後の対応あるデータとして 94 件が抽出された。総得点の中央値は実習前 164.50、実習後 174.50 であった。総得点と下位尺度の全てに有意差を認めた(表 1)。

|           | 実習前   |               | 実習後   |               | 漸近有意確率<br>(両側) |
|-----------|-------|---------------|-------|---------------|----------------|
|           | 中央値   | 4分位範囲         | 中央値   | 4分位範囲         |                |
| 総得点       | 164.5 | 151.00-178.00 | 174.5 | 160.00-188.00 | .000 **        |
| 下位尺度      |       |               |       |               |                |
| 論理的思考     | 32.0  | 28.00-37.00   | 37.0  | 32.00-40.00   | .000 **        |
| 開かれた柔軟な思考 | 41.0  | 37.00-43.00   | 41.5  | 38.00-44.25   | .035 *         |
| 粘り強い熟慮    | 26.0  | 24.00-29.00   | 27.0  | 25.00-30.00   | .006 **        |
| 省察的検討     | 26.0  | 24.00-29.00   | 28.0  | 26.00-30.00   | .002 **        |
| 創造的思考     | 27.0  | 25.00-30.00   | 29.0  | 26.75-31.00   | .000 **        |
| 直観        | 12.0  | 10.00-13.00   | 13.0  | 11.00-15.00   | .000 **        |

Wilcoxonの符号付順位和検定 \*\* $p < .01$  \* $p < .05$

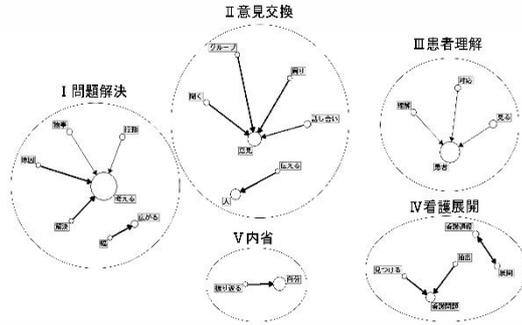
対象の背景

対象の背景について、背景別に群分けを行い、2 群間の比較に、Mann-Whitney の U 検定を行った結果、「CT を知っていたか」、「大学で CT を学ぶ機会があったか」の質問で有意差を認めた。どちらも「はい」と回答した群の得点が高かった。

自由記述：臨地実習中の CT 適用状況と使用理由

・ことばネットワーク分析

分析対象のテキストデータを算出した結果、723 の語句が抽出された。ことばネットワーク分析の結果、記述内容は 8 つのクラスターに分類された(図 1)。このうち 3 つの大きなクラスターは、“考える”、“意見”、“患者”それぞれを中心に共起するものであった。それぞれのクラスターについて原文確認した後、クラスターの示す内容を整理しカテゴリー化した。臨地実習中に CT を使用した状況として、【問題解決】【意見交換】【患者理解】【看護展開】【内省】の 5 つが抽出された。



・CT 測定尺度得点別の特徴語分析

特徴語分析では、高得点群は“ケア”、“自分”、“どのよう”、“必要”が抽出された(表 2)。原文は、「どのようなケアが必要とされるか」「計画や具体的ケアを考えると」「ケアの根拠として、CT の視点から考える」「問題を明確にし、どのような看護が必要か分かりやすかった」等であった。低得点群では、“分かる”、“話し合い”、“持つ”、“カンファレンス”が見られた。原文では、「カンファレンスでテーマについて話し合うとき」「カンファレンスで CT を使用した」「話し合いの論点が分かりやすくなった」などの記述が見られた。

表 2 CT 測定尺度得点別の特徴語 (n=581)

| 高得点群   |       | 低得点群    |       |
|--------|-------|---------|-------|
| 語句     | 補充類似度 | 語句      | 補充類似度 |
| ケア     | 4.95  | 分かる     | 7.47  |
| 自分     | 4.37  | 話し合い    | 4.60  |
| どのよう   | 4.34  | 持つ      | 4.02  |
| 必要     | 3.19  | カンファレンス | 4.00  |
| アセスメント | 2.91  | 多く      | 3.45  |
| 人      | 2.91  | 展開      | 3.45  |
| 他      | 2.61  | 方向性     | 3.45  |
| 対象     | 2.61  | 根拠      | 3.43  |
| 理解     | 2.61  | 看護計画    | 3.15  |
| 考える    | 2.11  | 意見      | 2.85  |
| 行う     | 2.04  | 患者      | 2.82  |
| 一人     | 1.74  | 看護過程    | 2.58  |
| 関わる    | 1.74  | 活かす     | 2.30  |
| 機会     | 1.74  | 含める     | 2.30  |
| 気づく    | 1.74  | 決める     | 2.30  |
| 客観視    | 1.74  | 場面      | 2.30  |
| 原因     | 1.74  | 振り返る    | 2.30  |
| 効果的    | 1.74  | 中       | 2.30  |
| 今      | 1.74  |         |       |
| 状態     | 1.74  |         |       |
| 知る     | 1.74  |         |       |
| 提供     | 1.74  |         |       |
| 伝える    | 1.74  |         |       |
| 備る     | 1.74  |         |       |

補充類似度・属性ごとに特徴的に出現する単語や語句を抽出する指標値

(2) 考察

臨地実習前後における学生の CT 力

臨地実習前後における学生の CT を比較した結果、実習を経験することで CT 力は向上することが示唆された。これは先行研究と同様の結果を示しており<sup>7,8,14</sup>、臨床看護師を対象にした研究でも経験年数が高いほど CT 測定尺度総得点が高くなることから<sup>10,15-17</sup>、看護実践の中で CT が育成されていくものと推察される。本調査における学生の实習後の CT 測定尺度総得点中央値は 174.5 であった。しかし先行研究においては、実務年数 5 年目以下の看護師の CT 測定尺度総得点中央値は 150.0、11 年以上で 160.5 である<sup>10</sup>。つまり、臨床看護師よりも学生が自己の CT 力を高く認識していることになる。これについては、California Critical Thinking Dispositions Inventory (CCTDI) を用いた調査<sup>18</sup>や批判的思考態度尺度を用いた調査<sup>14,19</sup>でも同様の結果が報告されている。この成因として、真継ら<sup>19</sup>は「CT 力が上がり自己評価が厳しくなった。」と述べている。また、臨床看護師に対する継続教育の不足が挙げられている<sup>18</sup>。臨床看護師の CT 能力と経験年数との関連においては、「一部の項目は変化がない」「CT 能力は低下する」「CT 力と年数に関連は見られない」とする研究<sup>15,20</sup>もある。従って、単に臨床経験を積んだだけでは CT 能力は向上しないと考えられる。

次に、学生の背景と CT 力の関連について、有意差が見られたのは「CT を知っていたか」、「大学で CT を学ぶ機会があったか」の 2 項目であった。つまり対象が CT という言葉を知っているか、否かにより得点差が生じたと考えられる。CT は、明示して教える方法が有効だとされている<sup>21</sup>。それは、CT が意図的な思考方法であることに由来すると考える。実習前に CT の理解を進めることがその後の CT 力の成長につながるが、看護系大学での CT 教育は体系化が進んでおらず、そのための研究も見当たらない<sup>6,14,22</sup>。今後、看護における CT の教育方法の確立や教材化、体系化が求められる。臨地実習において学生の CT 力を伸ばすためには、まず CT に対する理解を確認し、看護実践の場でいつどのように CT を発揮すればよいかを具体的に教える必要がある<sup>23</sup>。

臨地実習中の CT 使用状況

臨地実習中に CT を使用する状況としては、【問題解決】【意見交換】【患者理解】【看護展開】【内省】の 5 つが抽出された。【問題解決】【看護展開】に関するカテゴリーの自由記述は、収集した情報に対する根拠を考える、論理的に考えるという内容に集約された。これは、CT 測定尺度の論理的思考や省察的検討に該当する内容と捉えることができる。次に【意見交換】【患者理解】【内省】の記述を概観すると、多角的に捉える、他者の意見を受け止めるという記述であり、CT 測定尺度の開かれた柔軟な思考や創造的思考の概念を含んでいるものと思われる。

高得点群と低得点群の特徴語を比較すると、高得点群は看護ケアの中で自己を振り返るときにCTを用いることが多かった。Ennis<sup>2)</sup>らは、CTが発揮される場面においてCTを使おうとする態度が働くことで適切なCTの能力・スキルが選択され、決断や行動がなされると報告している。本調査でも高得点群は、抽出された特徴語から自己の振り返りや問題解決過程にCTを用いていることが分かった。一方、低得点群ではカンファレンスなどの限られた場面でCTを用いていたが、問題解決のプロセスに沿っておらず、その場限りの対応が目立った。今回の調査によって、学生のCT適用状況が明らかになった。そこで、教員が学生の現況を把握することにより、実習体験の教材化が可能である。その教材化された実習体験を蓄積していくことが、学生のCT力を伸ばす一助になると考える。

## 引用文献

- 1) 文部科学省ホームページ:平成24年6月4日参考資料1-1.国家戦略会議関係資料.
- 2) R.H. Ennis. A logical basis for measuring critical thinking. *Educational Leadership* 1985; 43(2): 44-48.
- 3) R.Alfaro-leFevre/江本愛子監訳:アルファロ看護場面のクリティカルシンキング, 医学書院, 東京. 2006.
- 4) 松谷美和子, 他. 看護実践能力:概念, 構造, および評価. *聖路加看護学会誌*, 14(2), 18-28. 2010.
- 5) 塚本尚子, 船木由香. 看護におけるクリティカルシンキングの重要性. *看護教育*, 54(6), 462-468. 2013.
- 6) 船木由香, 塚本尚子. 看護教育におけるクリティカルシンキングの研究の動向. *聖母大学紀要* 2012; 9: 63-70.
- 7) 草地潤子, 刀根洋子, 大西潤子, 他. 基礎看護学実習における学生自己評価の変化 - 内的統制, 自律性, クリティカルシンキングの観点から -. *日本赤十字武蔵野短期大学紀要* 2005; 17: 13-19.
- 8) 大西潤子, 刀根洋子, 中村幸子, 他. 臨地実習前後における内的統制, 看護の自律性, クリティカルシンキングの変化 - 問題基盤型学習 (PBL- tutorial) 教育を受けた学生の自己評価 -. *日本赤十字武蔵野短期大学紀要* 2003; 16: 61-67.
- 9) 田中裕子, 楠見孝. 批判的思考の使用判断に及ぼす目標と文脈の効果. *教育心理学研究* 2007; 55: 514-525.
- 10) 石橋鮎美, 長田京子, 福間美紀. 臨床看護師のクリティカルシンキングを測定する尺度の開発. *日本医学看護学教育学会誌* 24(2): 7-12, 2015.
- 11) Scheffer, B.K., Rubinfeld, M.G. A consensus statement on critical thinking in nursing. *Journal of Nursing Education* 2000; 39: 352-359.
- 12) Rubinfeld, M.G. Critical thinking in nursing: a caring nurse is a thinking nurse. *看護学教育学会誌*, 12: 47-58. 2002.
- 13) 平山のみ, 楠見孝. 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響. *教育心理学研究*, 52, 186-197. 2004.
- 14) 李慧瑛, 緒方重光, 他. クリティカルシンキング力の変化. *鹿児島大学医学部保健学科紀*, 26(1): 1-33. 2016.
- 15) 田村由美, 大森美津子, 真鍋芳樹, 他. 臨床看護婦のクリティカルシンキング - 個人属性とCT能力の自己評価との関連性 -. *香川医科大学看護学雑誌*, 2(1): 46-60. 1997.
- 16) Feng, R., Chen, M., Chen, M., et al. Critical thinking competence and disposition of clinical nurses in a medical center. *Journal of Nursing Research*, 18(2): 77-86. 2010.
- 17) Chang, M., Chang, Y., Kou, S., et al. Relationships between critical thinking ability and nursing competence in clinical nurses. *Journal of Clinical Nursing*, 20: 3224-3232. 2011.
- 18) Kawashima, A., Petrini, M. A. Study of critical thinking skills in nursing students and nurses in Japan. *Nurse Education Today* 24(4): 286-292. 2004.
- 19) 真継和子, 池西悦子, 山下哲平, 他. 看護師の学習スタイルと批判的思考態度の特徴および関連性. *大阪医科大学看護研究雑誌* 2017; 7: 43-54.
- 20) 林みよ子, 黒田裕子, 山田紋子. 看護支援システムを使用する看護師の看護診断正確性と臨床看護経験年数, 自律性, 直観力, クリティカルシンキング能力の関係. *看護診断* 2012; 17(1): 14-23.
- 21) Davidson, B. C., Luckett, J. Evaluating critical thinking progress in EFL composition. *JACET Bulletin* 2003; 37: 17-29.
- 22) 尾形裕子. 日本の看護実践におけるクリティカルシンキングの動向と今後の課題. *北海道文教大学研究紀*, 40, 1-14. 2016.
- 23) 野地有子. クリティカルシンキングの我が国の看護教育における浸透と課題 - クリティカルシンキングを看護教員が身につける方策について -. *看護教育* 54(6): 450-456. 2013.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 19件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 16件）

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>李 慧瑛、下高原 理恵、緒方 重光   | 4. 巻<br>50            |
| 2. 論文標題<br>看護大学生の臨地実習前後におけるクリティカル・シンキング 学習状況との関連とCT使用状況   | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>医学教育  | 6. 最初と最後の頁<br>160-168 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.11307/mededjapan.50.2_160   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Lee, H., Shimotakahara R., Ogata S., et al.   | 4. 巻<br>5(3)          |
| 2. 論文標題<br>Impact of differences in clinical training methods on generic skills development of nursing students: A text mining analysis study | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>Heliyon   | 6. 最初と最後の頁            |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1016/j.heliyon.2019.e01285  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Lee, H., Shimotakahara, R., Fukada, A., et al.  | 4. 巻<br>29            |
| 2. 論文標題<br>Global trend of decision support over medical care.  | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>Bull Sch Health Sci Kagoshima Univ.   | 6. 最初と最後の頁<br>103-111 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Shimotakahara, R., Lee, H., Tamatsu, Y., et al.   | 4. 巻<br>29            |
| 2. 論文標題<br>Transition and trend of study on domestic and overseas anorexia and dysphagia  | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>Bull Sch Health Sci Kagoshima Univ.   | 6. 最初と最後の頁<br>113-119 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Mine, K., Shimotakahara, R., Lee, H., et al.   | 4. 巻<br>29           |
| 2. 論文標題<br>The fine slips of cutaneous muscle extending from the ventrolateral trunk to the brachium in the rat. | 5. 発行年<br>2019年      |
| 3. 雑誌名<br>Bull Sch Health Sci Kagoshima Univ.  | 6. 最初と最後の頁<br>97-101 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-            |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Shimotakahara, R., Lee, H., Ogata, S., et al.               | 4. 巻<br>32            |
| 2. 論文標題<br>Anatomy of the lingual Nerve: Application to oral surgery. | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>Clinical Anat.  | 6. 最初と最後の頁<br>635-641 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/ca.23361                          | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>西本大策, 李慧瑛, 兒玉慎平                   | 4. 巻<br>67(1)       |
| 2. 論文標題<br>看護師のバーンアウトに影響を及ぼす二次元レジリエンス要因の分析. | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>日本職業災害医学会会誌                       | 6. 最初と最後の頁<br>38-43 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし              | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Lee, H., Shimotakahara, R., Ogata, S.  | 4. 巻<br>38(4)         |
| 2. 論文標題<br>Literature research using text mining analysis: Priority of Japanese oncology nursing in the article title. | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>Japan J Med Inform.  | 6. 最初と最後の頁<br>235-244 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Shimotakahara, R., Lee, H., et al.  | 4. 巻<br>7(2)          |
| 2. 論文標題<br>Literature Research on Dysphagia in Japan: Overview of Studies from 1982 to 2017 by Article Title. Deglutition | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>Deglutition   | 6. 最初と最後の頁<br>279-298 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光.                       | 4. 巻<br>28(2)      |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングによる緩和ケア論文表題の可視化               | 5. 発行年<br>2018年    |
| 3. 雑誌名<br>医療と社会                                   | 6. 最初と最後の頁<br>1-17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.4091/iken.2018.001 | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)             | 国際共著<br>-          |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>深田あきみ, 李慧瑛, 下高原理恵, 他.                        | 4. 巻<br>15(6)         |
| 2. 論文標題<br>リフレクションの要素を取り入れた ポートフォリオを使った臨地実習におけるピア・サポート | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                                       | 6. 最初と最後の頁<br>118-122 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                 | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>深田あきみ, 李慧瑛, 下高原理恵, 他.                        | 4. 巻<br>15(5)         |
| 2. 論文標題<br>リフレクションの要素を取り入れた ポートフォリオを使った臨地実習におけるピア・サポート | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                                       | 6. 最初と最後の頁<br>122-126 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                 | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光.            | 4. 巻<br>28(5)       |
| 2. 論文標題<br>看護記録 電子カルテ                  | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>臨床看護記録                       | 6. 最初と最後の頁<br>30-33 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>深田あきみ, 李慧瑛, 下高原理恵, 他             | 4. 巻<br>15(3)         |
| 2. 論文標題<br>看護実習で使えるユニークな指導法 ジェネリック看護学院の関連図 | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                           | 6. 最初と最後の頁<br>106-113 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし             | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 緒方重光             | 4. 巻<br>28(4)       |
| 2. 論文標題<br>看護記録 真実の瞬間                  | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>臨床看護記録                       | 6. 最初と最後の頁<br>61-65 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光.            | 4. 巻<br>28(3)       |
| 2. 論文標題<br>看護記録 Kissの法則                | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>臨床看護記録                       | 6. 最初と最後の頁<br>20-26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 深田あきみ, 他.        | 4. 巻<br>15(2)       |
| 2. 論文標題<br>看護レジリエンスを育成する               | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                       | 6. 最初と最後の頁<br>44-48 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光.            | 4. 巻<br>27(5)         |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングの極み                | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>主任看護師                        | 6. 最初と最後の頁<br>105-111 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 緒方重光             | 4. 巻<br>15(1)         |
| 2. 論文標題<br>社会人基礎力測定する                  | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                       | 6. 最初と最後の頁<br>118-125 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Hyeyoung Lee, Rie Shimotakahara, Hyeweon Kim, Shigemitsu Ogata  | 4. 巻<br>23(3)         |
| 2. 論文標題<br>Japanese Nursing Student's Learning Experience, Self-directed Learning Ability, and Self-efficacy in Nursing Practice which Utilized Portfolio | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>The Journal of Korean Academic Society of Nursing Education   | 6. 最初と最後の頁<br>279-289 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="https://doi.org/10.5977/jkasne.2017.23.3.279">https://doi.org/10.5977/jkasne.2017.23.3.279</a>                       | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光  | 4. 巻<br>67(12)        |
| 2. 論文標題<br>知識創出支援ツールとしてのテキストマイニングの強みと弱み   | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>情報の科学と技術  | 6. 最初と最後の頁<br>643-649 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="https://doi.org/10.18919/jkg.67.12_643">https://doi.org/10.18919/jkg.67.12_643</a> | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 深田あきみ, 新橋澄子, 緒方重光, 上野栄一   | 4. 巻<br>19(2)       |
| 2. 論文標題<br>論文表題におけるがん看護研究と対がん政策との関連 -テキストマイニングを用いた過去46年間の時代的変遷の分析-  | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>日本看護医療学会雑誌  | 6. 最初と最後の頁<br>71-82 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="https://doi.org/10.11477/mf.7009200287">https://doi.org/10.11477/mf.7009200287</a> | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-           |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>Hyeyong Lee, Rie Shimotakahara, Akimi Fukada, Sumiko Shinbashi                     | 4. 巻<br>28        |
| 2. 論文標題<br>Trends spanning 36 years of nursing research                                      | 5. 発行年<br>2018年   |
| 3. 雑誌名<br>Bulletin of the school of health sciences faculty of medicine Kagoshima University | 6. 最初と最後の頁<br>1-8 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-         |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>Kazuharu Mine, Rie Shimotakahara, Hyeyong Lee, Daisaku Nishimoto, Shigemitsu Ogata                       | 4. 巻<br>28          |
| 2. 論文標題<br>Source artery of theSource artery of the dorso-cranial part of subcutaneous structures in the rat trunk | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>Bulletin of the school of health sciences faculty of medicine Kagoshima University                       | 6. 最初と最後の頁<br>77-81 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-           |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 西本大策, 峰和治, 緒方重光, 上野栄一 | 4. 巻<br>28         |
| 2. 論文標題<br>日本の公衆衛生研究の歴史的概観                  | 5. 発行年<br>2018年    |
| 3. 雑誌名<br>鹿児島大学医学部保健学科紀要                    | 6. 最初と最後の頁<br>9-19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし              | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)      | 国際共著<br>-          |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>福留清博, 山口さおり, 李慧瑛, 井上尚美, 森隆子, 松田史代, 吉満孝二, 柳田信彦, 赤崎安昭 | 4. 巻<br>28          |
| 2. 論文標題<br>保健学科ホームページのアクセス解析                                  | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>鹿児島大学医学部保健学科紀要                                      | 6. 最初と最後の頁<br>69-75 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                        | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光             | 4. 巻<br>28(2)         |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングによる緩和ケア論文表題の可視化    | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>医療と社会                        | 6. 最初と最後の頁<br>259-275 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Rie Shimotakahara, Hyeyong Lee, Shigemitsu Ogata  | 4. 巻<br>7(2)          |
| 2. 論文標題<br>Literature Research on Dysphagia in Japan Overview of Studies from 1982 to 2017 by Article Title | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>嚥下医学  | 6. 最初と最後の頁<br>279-298 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光                | 4. 巻<br>14(1)       |
| 2. 論文標題<br>KHcoderとTextMiningStudioを使った研究 | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                          | 6. 最初と最後の頁<br>75-83 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし            | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難    | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 緒方重光             | 4. 巻<br>14(2)       |
| 2. 論文標題<br>看護研究とテキストマイニングのリレーション       | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                       | 6. 最初と最後の頁<br>81-87 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光             | 4. 巻<br>14(3)       |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングで看護記録を改善           | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                       | 6. 最初と最後の頁<br>78-86 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 緒方重光             | 4. 巻<br>14(4)       |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングの真髄                | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                       | 6. 最初と最後の頁<br>86-91 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光                            | 4. 巻<br>26(6)       |
| 2. 論文標題<br>看護業務の見直し・改善を実現するテキストマイニング テキストマイニングで何が見えるか | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>主任看護師                                       | 6. 最初と最後の頁<br>70-73 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                        | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光             | 4. 巻<br>27(1)       |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングで何が見えるか            | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>主任看護師                        | 6. 最初と最後の頁<br>91-95 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 緒方重光             | 4. 巻<br>27(2)         |
| 2. 論文標題<br>グラフとテキストマイニングを組み合わせる        | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>主任看護師                        | 6. 最初と最後の頁<br>106-113 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光             | 4. 巻<br>27(3)         |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングによる業務改善            | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>主任看護師                        | 6. 最初と最後の頁<br>100-106 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 緒方重光             | 4. 巻<br>27(4)         |
| 2. 論文標題<br>RCA分析とテキストマイニング             | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>主任看護師                        | 6. 最初と最後の頁<br>112-120 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 緒方重光, 深田あきみ, 新橋澄子, 平野和恵, 清水多嘉子 | 4. 巻<br>10(5)       |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングで読み解く口腔管理と地域連携                   | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>地域連携入退院支援                                  | 6. 最初と最後の頁<br>79-87 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                       | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光, 深田あきみ, 新橋澄子, 平野和恵, 清水多嘉子 | 4. 巻<br>1(6)        |
| 2. 論文標題<br>がん看護研究45年の動向 テキストマイニングで読み解く意思決定支援         | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>エンド・オブ・ライフケア                               | 6. 最初と最後の頁<br>41-45 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                       | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>下高原理恵, 李慧瑛, 緒方重光, 深田あきみ, 新橋澄子, 平野和恵, 清水多嘉子 | 4. 巻<br>2(1)        |
| 2. 論文標題<br>テキストマイニングで読み解く緩和ケア研究                      | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>エンド・オブ・ライフケア                               | 6. 最初と最後の頁<br>58-63 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                       | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 深田あきみ, 新橋澄子, 緒方重光      | 4. 巻<br>14(5)       |
| 2. 論文標題<br>自分の頭で理論的に考える学生を育てる ジェネリック・スキルを育てる | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>看護人材育成                             | 6. 最初と最後の頁<br>92-97 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし               | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       | 国際共著<br>-           |

[学会発表] 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 深田あきみ, 新橋澄子, 緒方重光 |
| 2. 発表標題<br>看護学生のクリティカルシンキング力が育成される状況     |
| 3. 学会等名<br>第20回日本看護医療学会学術集会              |
| 4. 発表年<br>2018年                          |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Rie Shimotakahara, Hyeyong Lee, Kazuharu Mine, Yuichi Tamatsu |
| 2. 発表標題<br>Anatomy of the Lingual Nerve: Application to Oral Surgery     |
| 3. 学会等名<br>第124回日本解剖学会総会・全国学術集会  |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>李慧瑛, 下高原理恵, 深田あきみ, 新橋澄子, 緒方重光 |
| 2. 発表標題<br>ポートフォリオを用いた臨地実習における自己教育力と関連要因 |
| 3. 学会等名<br>第19回日本看護医療学会                  |
| 4. 発表年<br>2017年                          |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Hyeyong Lee , Rie Shimotakahara   |
| 2. 発表標題<br>Impact of Differences in Practical Training Methods on Generic Skills Development: Resilience among Nursing Students in Clinical Training |
| 3. 学会等名<br>第11回鹿児島大学医歯学総合研究科基礎系研究発表会   |
| 4. 発表年<br>2018年  |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|  | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|  |                           |                       |    |